



4月31日で平成が終わりますね。改元されるのが決まってから、「平成最後の〇〇」という表現を耳にしました。天皇陛下が今月末に退位されて、5月に皇太子徳仁親王が即位されると「平成」が終わり、新しい「令和」が始まります。皆さんは、年号が千年もの間、中国の古典に由来して名付けられてきたこと、年号を改める「改元」には、リセットする、という意味が込められていたことを知っていますか。

平成の終わりを迎えるにあたり、これだけは知っておきたい年号にまつわる事柄をまとめてみました。

○年号とはなに？

自分の子供の健やかな成長を願って名前をつけるように、日本では時に名前をつけます。このつけた名前を年号と呼びます。日本では1300年以上、途絶えることなく、年号が使われています。もともと中国の漢（紀元前202～220年）の時代に、誰が主権者であるか、その時の治世者をアピールするために使われはじめました。その風習が日本にもわたり、中国とは別の独自の年号を自分たちでつけるようになったのです。

○「平成」、「昭和」、「大正」と年号を遡ると漢字二文字です。年号は漢字二文字でなければいけなかったのか？

天平の時代（729～749年）には「天平感宝」や「天平勝宝」と漢字四文字で名付けられていたこともありますので、漢字二文字でなければいけなかった、という決まりはありませんでした。しかし、漢字二文字を使う方式が長く踏襲されて現在に至っています。

○年号を変える改元は、天皇の即位に合わせて行うものなのか？

明治時代以降は、「一世一元制」といって、天皇の即位に合わせて、改元がなされるようになりました。中国では、明の時代（1368～1644年）からはじまった方式で、日本でも取り入れられました。しかし、江戸時代までは、天皇の即位以外の理由でも名前をどんどん変えていたのです。たとえば、天災が続いた場合には、縁起が悪いのでリセットするために、年号を変えることが珍しくありませんでした。

○新しい年号は、どのように決められてきたのか？

現代の決め方については、情報が限られているのでそれほど詳しくはわかりませんが、数名の有識者に案を出してもらい、ふるいにかけるための議論を行って、決めるといのは今も昔も変わらないそうです。平安時代中期以降の決め方について紹介すると、朝廷内には文章博士家（もんじょうはかせけ）と

呼ばれる家がいくつかありました。文書博士は、漢文で書かれた中国の古典（漢籍）の専門的な知識を持っている役人で、中国古典学の大学教授のような有識者です。新しい年号を決める際、文章博士たちから、年号の案とその典拠となる漢籍の一節を書いた文章（年号勘文、ねんごうかんもん）が提出されて、どの案がよいかという議論、難陳（なんちん）がなされていました。

公卿が行った難陳の議論は、先例を重視するもので、不吉なことがあったときの文字だから使わない、この文字には悪い意味があるから避ける、といったことが話し合われました。議論の結果、残った候補年号が天皇に報告され、採用されます。

○「平成」は、国内外、天地の両方が平和であれという願いが込められて、『史記』と『書経』の二つの漢籍を引用したと言われていています。年号は必ず漢籍を引用してきたのか？

たとえば、珍しい亀を見かけた、というような縁起のよいできごとがあったので「靈亀（れいき）」と名付けられた時代もあれば、銅が取れたので、「和銅（わどう）」と名付けられた時代もありました。年号が使い始められた時の年号は、漢籍の出典を持っていなかったようです。しかし、年号の先例が蓄積されて、先ほど紹介したような年号の決め方が定式化してくると、漢籍の引用が必須になったと考えられます。当時、圧倒的な先進国であった中国が漢字を使っている。そのような漢字を使って書かれているありがたい漢籍に由来するのであれば、その年号にお墨付きがつく。こういう発想で、漢籍を引用したのです。

https://www.nihu.jp/ja/publication/nihu_magazine/028より）

◎今月の嬉しいお知らせ◎「宿題なしデー」をつくります！

毎日提出していただいている宿題ですが、毎月第2土曜日は宿題をなしにします。

なぜ毎月第2土曜日なの？と思う人もいるでしょう。毎月第2土曜日は、博物館や美術館などでイベントがあったり、割引があったりする日が多いです。ぜひ、自分の趣味を広げる時間にしてください。

また、2019年度の開校カレンダーをホームページに掲載する予定です。そちらもよろしければご確認ください。

日頃から、建文塾の指導にご理解、ご協力いただき、誠にありがとうございます。

これまで、事務通信とともにアンケートをお送りさせていただいておりましたが、まだの方もいらっしゃいます。できるだけ多くのアンケート結果を元に、これからの指導をよりよくしていきたいと思っておりますので、ご協力よろしくお願い致します。

